

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872100904
法人名	医療法人社団 健晴会
事業所名	グループホームますおか内科 ユニット名( 2階ユニット )
所在地	〒312-0054 茨城県ひたちなか市はしかべ1-2-3
自己評価作成日	令和 5年 2月 27日
評価結果市町村受理日	令和 5年 6月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0872100904-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0872100904-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年4月24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の「その人らしさを尊重し、地域の方々と交流を深め、笑顔で健やかに過ごせるように」を職員一人一人が念頭に置き支援しています。地域ボランティアとの交流、地域の行事への参加など地域に密着した施設作りに取り組んでいます。母体となる医療法人社団 健晴会 ますおか内科クリニックとの連携を図り、適切な医療を受けられるように努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地で、登下校する学童や生徒との交流ができるような地域に立地している。経営母体の診療所に隣接し、24時間連絡可能な体制が構築されており、利用者や家族等に、病気療養や健康管理の面で安心を与えている。職員は利用者が笑顔で過ごせるよう、日々の支援に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念を職員全員に理解していた だき、共有していきながら実践につなげ、 日々のケアに反映している。	毎月職員会議で唱和し、確認をしている。基本理念を職員全員が理解し、共有しながら利用者が有する能力に応じ、可能な限り自立してその人らしい生活を営むことができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の資料を使い情報交換を行っている。新型コロナの影響で地域のボランティア、夏祭りなどの地域のイベントに参加できなかった。近くの公園のまでの散歩、花壇の水やり等で地域とのつながりを大切にしている。	近隣の公園への散歩時や事業所の花壇への水遣り時に地域住民と挨拶を交わすなど、交流している。コロナ過以前は地元の夏祭りに参加したり、小学校の学童ボランティアを受け入れていた。終息後は再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでに経験や研修で得た知識を地域の方々に伝えられるように、運営推進や勉強会の活動を通して理解が広がるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の資料を市役所、自治会長、民生委員へ郵送し行事や日々のサービスや取り組みについて報告している。	家族等の代表や利用者、市職員、民生委員、自治会長等が委員となり定期的に開催している。事業所の行事や取り組み、外部評価の結果等を報告し、課題について話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用調査の協力や見学者に対応している。必要な時には行政に連絡し相談をしている。市町村の新たな情報があった場合は連絡を貰い助言を頂いている。	運営上の困りごとや介護保険の解釈等を相談し、助言を得るなど、良好な関係づくりに努めている。必要があれば相談員の受入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行わないものとし、見守り・観察を怠らないようにしている。当事業所前の道路は交通量が多く、事故防止の為やむを得ず玄関を施錠する場合には、家族の承知を得ている。	身体拘束排除のための委員会を設置し定期的に委員会を開催している。職員は年1回内部研修を行うとともにスピーチロックやフィジカルロックについても管理者が都度注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での会議や勉強会の中で虐待防止について話し合い、職員の意識を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性について話し合いを行い、必要に応じて制度を活用できるように勉強会を行っている。行政機関に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び解約時には契約書を読み上げながら十分な説明を行い、入居者様や家族に疑問や不安な点が無いか確認し、理解と納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員共積極的に入居者様とコミュニケーションを図り、その中に含まれる希望や不満等を吸い上げ、それらの点について改善できるように努めている。定期的に家族へ連絡している。	玄関に意見箱を設置するとともに、利用者からは日々の会話から、家族等からは面会時に会話の機会を設けて聞いたり、定期的に日々の様子を電話で報告した時に、要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月1回の全体会議や毎日の申し送り等から職員一人一人の意見に耳を傾け、業務に反映できるよう努めている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに職員面接時に意見や要望を聞いている。職員の状況に合わせた勤務体制に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者・職員の勤務状況を把握し適切な人員配置を行い、過度のストレスや疲労が蓄積しないよう働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者・職員のスキルアップやサービスの向上につながるよう、内部の勉強会に積極的に参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員、グループホーム連絡協議会に属し、送られてくるFAXや手紙を使い積極的に情報交換し、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が不安なことや困っている事をうまく伝えられないときには、相手のペースに合わせて傾聴し対応するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な事に耳を傾けることで安心して頂き、より良い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に他のサービスを視野に入れた上で本人と家族が必要としているサービスを見極めながら、選択して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と共に裁縫・園芸などを一緒に行き、知識を教えて頂きながらコミュニケーションをとることで、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と積極的にコミュニケーションを図り、近況報告や施設内での過ごし方を知って頂き、共に支え合う関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の仲間や馴染のある知人の来訪受け入れの支援をしている。希望があれば家族と相談の上、外出も出来るよう支援している。	入居前の聞き取り等で知り得た情報からフェイスシートを作成している。電話連絡や手紙のやり取り等を職員が手伝い、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人入居者様にも目を配り、皆様と打ち解けられるようレクリエーションや散歩などの交流の場をつくり、話題を提供するなど円満なコミュニケーションを構築できるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も困ったことがあれば相談や出来る限りの協力をさせて頂く事を伝え、より良い関係が継続できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望・意向に耳を傾けたり表情を読み取る事でニーズの把握に努め、困難な時でも出来る限り本人の希望・意向に近づくように取り組んでいる。	日々の支援の中で話したことなどから要望等の把握に努めている。新たに得られた情報は申し送りノートに記載し、共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし、今までの生活環境や利用してきたサービスなどを聞かせて頂き、それらの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況や精神状態の観察を行い、記録している。また申し送りを通しスタッフ間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、本人・家族・職員等それぞれの意見・要望・アイデアを反映し、介護計画の作成にあたっている。	家族等や利用者の意向を基に介護計画を作成し、毎月カンファレンスを行っている。3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。利用者の状態に変化があれば随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践などを記録に残し、申し送りで情報共有することにより、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズの変化に対応し、支援やサービスの多機能性を目指し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関と連携し、入居者様が安全で豊かな生活が営めるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携し、本人・家族と相談の上、必要に応じた医療が受けられるよう支援している。	契約時にこれまでのかかりつけ医への継続受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療が週3回ある。付き添いは状況に応じて家族等や職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体クリニックの看護職員に入居者様の状態や変化に気付いたことを伝え、適切な処置や受診のアドバイスを受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院と連携している。受診や入院の際には必ず職員が付き添い、受診までの経過や既往歴などの情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった時には今後の方針について、医師や看護師と共に本人や家族の意向を確認している。意向については、職員全員が共有できるようにカンファレンスで変化に対応した支援が出来るように努めている。年に1回終末期ケアの内部研修を行っている。	看取りは行わない方針であるが「重度化した場合における(看取り)指針」があり同意書を得ているため分かりづらい。職員は年1回内部研修を行い看取りや終末期ケアについて学んでいる。	看取りに対する事業所の方針を再度明確化した指針の作成を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、手当、事故発生時の対応については、マニュアルに沿って対応できるように勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年に2回防災訓練を行っている。また地震を想定した避難訓練を年に1回実施している。通報の仕方や避難方法、消火方法を職員全員が対応できるようにしている。	夜間や地震を想定した訓練を行い、反省会で直にに向けた課題について話し合っているが、得られた課題を次の訓練に活かすまでには至っていない。	得られた課題を次回の訓練に活かす取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、声掛けや言葉づかいには気を付けて対応している。職員間で気付いたことがあれば声を掛け合い、より良い対応が出来るようにしている。	利用者の尊厳に配慮した言葉遣いに努めている。職員は年1回研修を行っている。研修資料が分かりやすい。個人情報に関する同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話だけでなく本人の行動や表情から思いに気づき、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間帯や、行事への参加等は本人の体調等や希望に沿って行えるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理容師の方に来て頂き、希望者には髪のカットやセットをして頂いている。季節ごとの衣替えは家族に協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守りにて、入居者様も食事の準備や片付けに携わっている。味付けや盛り付けなどもできる範囲で一緒に行っている。	利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立の工夫をしている。季節ごとの行事食を提供したり、職員と利用者で一緒におやつを作るなど、食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量や水分量を確認している。入居者様一人一人の摂取量に気を配り、状態に応じた支援が出来るよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態を観察している。夜間帯は義歯を外して頂き、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個人の排泄パターンを把握し、時間で声をかけトイレへ誘導している。夜間も安心してトイレへ行けるように一部介・誘導・見守りを行っている。	排泄チェック表からそれぞれの排泄パターンを把握して声掛けを行い、トイレでの自立排泄を支援している。便秘対策としてヨーグルトと体操を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調節に留意すると共に、おやつは整腸作用のあるヨーグルトを摂取している。また体操や散歩を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の入浴日を決めて、本人の体調や希望、タイミングに合わせてその都度調整している。	入浴は基本週3回、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。ゆず湯などの季節の湯を提供したり、同性介助に配慮するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はフロアで過ごして頂いたり、希望時に休息できるよう配慮している。眠れない時は、傾聴等を行うことで安心して入眠出来るよう支援をし、必要時には医師により本人に合わせた眠剤を処方している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報が一人一人ファイリングしており、職員はそれを確認し把握できるように努めている。また他受診時には、お薬手帳を活用できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の興味のあること、得意なことを活かし、役割を持って日々の生活が送れるように支援している。天気の良い日には、近所を散歩し、季節を感じながら気分転換出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように、散歩、ドライブ等を行っている。希望者は家族に気分転換をかねて、外食・外出の支援をしている。現在、新型コロナウイルス感染防止の為、季節の花の展示会や散策は自粛している。	コロナ禍以前は季節ごとに花見に出かけ、季節の変化を感じてもらっていたが現在は自粛している。買い物等も含め、終息後に再開する予定である。近隣の公園への散歩やドライブに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、トラブル防止の為に職員が行っている。欲しい物は家族へ連絡し購入してきてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話したい時には、施設の電話を使用して頂いている。また暑中見舞いや年賀状を一緒に書くよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には観葉植物やお花を飾り、心が和む空間を作っている。また、入居者様や家族の作品、季節に泡褪せた切り絵も飾っている。常に室温や湿度には気お付けている。	食堂兼居間は、季節の花や観葉植物が置かれ、温度湿度管理がなされた過ごしやすい場所になっている。壁面には、利用者と職員で作成した季節に合わせた作品や家族等の作品、行事の写真が掲示されている。ソファが設置され、気の合った利用者同士の語らいの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、気の合った入居者様同士や職員と会話したり、一人になったり、くつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや家具を完備している。本人の写真や小物等の私物等が飾られ、居心地の良い、その方らしい部屋作りが出来るように努めている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、テレビ等が備え付けられている。利用者の使い慣れたものや馴染みの品などを持ち込んでもらい、自宅に居た時のように過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーを設置している。また入居者様の使いやすさや行動を考えて環境整備をしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームますおか内科

作成日 令和 5年 6月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	施設内における重症化した場合における対応について、職員間での共通理解が図られていなかった。	利用者やご家族様の要求や意向に配慮しながら状態に応じた対応ができる。	個人の疾患、既往に応じて提携医療機関とスタッフ、利用者及び家族を踏まえて話し合いや相談の場を設ける。 方向性を決め、全スタッフで情報を共有し、その方向性に沿った対応ができるように努める。	3ヶ月
2	35	夜間や地震を想定した訓練を行い、反省会で直に向けた課題について話し合いを行っているが、得られた課題を次の訓練に活かすまでには至ってはいない。	課題である避難時間について、安全かつ短縮できるような避難方法を検討する。	夜間の地震を想定した訓練を実施する。訓練時だけでなく、避難方法（避難経路や誘導する順番）を日頃から全職員で共有・意識しておく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。